

<目指せ！1等米比率90%以上！～JA富山市米品質向上生産運動展開中～>

品質の高い米を生産するには、「**充実した太い茎**」と「**元気な根**」を確保することが重要です。そのため遅れずに、次の作業を行いましょよう。

- ① 中干しを効果的に行うため、「**溝掘り**」を確実に実施しましょよう。
- ② **田植後4週間までに「中干し」を開始し、根の健全化を図りましょよう。**

1. 溝掘り 田植後3週間ごろから落水し、溝掘りを行いましょよう

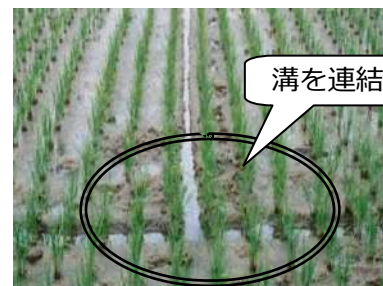
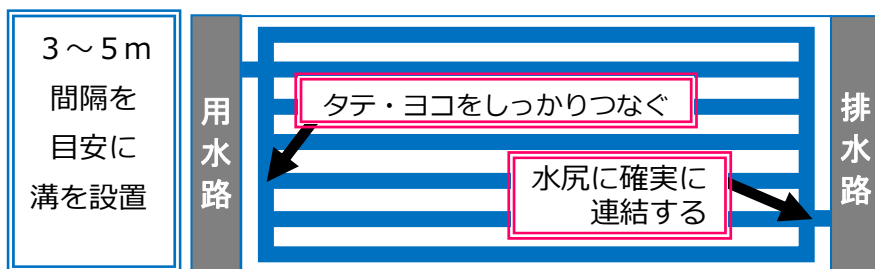
溝掘りは、**効率的な入排水**や、**ほ場内の均一な生育管理を行う**ために有効です。

<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、ひたひた水程度まで再入水して溝を掘る。(溝掘り後に落水)
- ・溝と水尻は確実に連結する。
- ・排水が悪いほ場は溝の設置本数を増やす。



溝掘りをしないと、ほ場内の乾きにくい場所で排水が遅れ、生育ムラが発生！刈取りに支障がある場合も。



2. 中干し 田植後4週間までに中干しを始め、確実に田面を固めましょよう

6月に入ると急激に分げつが増加します。**田植後4週間までに遅れず「中干し」を開始しましょよう。**また、出穂後20日間の湛水管理に備え、この時期に確実に田面を固めるようにしましょよう。

① 中干し時期の目安

田植日	中干し時期
5月10日	6月8日までに開始
5月15日	6月12日までに開始

◎ 中干しの効果

- ・無効分げつの抑制
- ・土中への酸素供給
- ・地耐力の向上



写真 中干し終了頃のほ場の状態

② 中干し程度

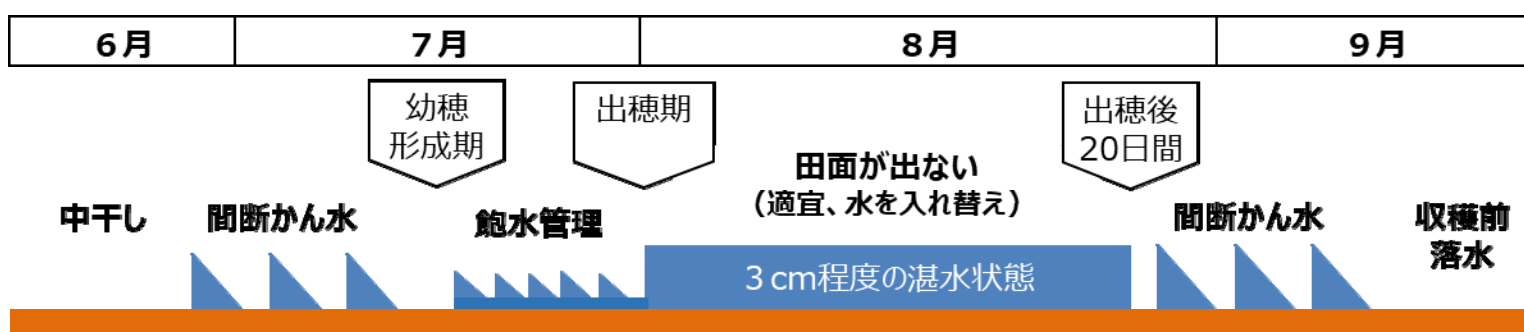
- ・田面に軽い亀裂が入る程度を目安に干しましょよう。
- ・復元田は、土がしまりやすいため、一度に干しあげず、徐々に干しましょよう。

中干しの終了は、ほ場中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安とする

3. 中干し後の水管理 中干しが終了したら間断かん水を行いましょよう

中干し後は、**幼穂形成期頃まで湛水と落水を繰り返す間断かん水**を実施しましょよう。**幼穂形成期まで足跡の深さ3cm程度を目標に地固め**しましょよう。

<水管理のイメージ> コシヒカリ



4. 中間追肥の施用

ケイ酸、カリの施用で、丈夫な稲体に仕上げましょう

- ◎ケイ酸の施用効果 ・根の活力を高める・フェーン時に水分の蒸散を防ぐ・茎葉を丈夫にし、倒伏を防ぐ
 ・受光体勢を良くし登熟を高める

肥料名	時期	10a当たり施用量
エスアイ加里らくだ	6月中旬 ～下旬	15kg
エスアイ加里カリ投げくん		4 kg(200g×20個)

エスアイ加里投げくん【パック肥料】

- ・ほ場に投げ込むだけなので重い動噴を担ぐ必要がありません
- ・5cm以上湛水して施用しましょう！

5. 中・後期除草剤

雑草が残った場合、使用方法を確認し、適期に散布しましょう

雑草の状況	除草剤名	10a当たり散布量	散布時期	使用回数	使用上の注意
広葉雑草 ホタルイ オモダカなど が残った場合	バサグラン 粒剤	3～4 kg	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	1回	・落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・散布後3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう、水尻は必ず止めておく ・スポット散布も可
	バイスコープ 1キロ粒剤	1 kg	田植後14～60日 (収穫45日前まで)	1回	・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
ノビエ のみ残った場合	トドメMF 1キロ粒剤	1 kg	田植後14日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	3回以内	・散布の際は、湛水状態(水深3～5cm) ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	ヒエクリーン 豆つぶ250	250g	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	・散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm) ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
ノビエ 広葉雑草 (ホタルイ オモダカなど) が残った場合	ワイドショット 1キロ粒剤	1 kg	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	レブラス 1キロ粒剤	1 kg	田植後14日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	1回	・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	クリンチャー バスME液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	・晴天日を選び、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・散布後少なくとも3日間は入水や落水をしない
	トドメバス MF液剤	1,000ml 希釈水量 100L	田植後15日～ ノビエ6葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	・晴天日を選び、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・散布後少なくとも3日間は入水や落水をしない
	ロイヤント乳剤 (クサム対策)	200ml 希釈水量 100L	田植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫45日前まで)	2回以内	・落水状態またはごく浅く湛水して散布する ・土壌水分が少ないと効果が発揮されない場合があるため、落水状態で散布した場合は3日以内に入水する ・7日間は落水やかけ流しをしない

・湛水状態で散布する除草剤は除草効果を高めるため、散布前に軽い田干しを行い、水の入れ替えを行ってから散布しましょう。除草剤散布の際は、周辺の作物に飛散しないよう注意しましょう。

★富山市農協ホームページで営農情報の提供を行っています★
<http://www.ja-toyamashi.or.jp/jouhou/> こちらで検索！

JA 富山市 営農情報 検索

春の農作業安全運動実施中・4/1～5/31

- ・農作業時は、作業に適した服装を心掛け、事故を未然に防ぎましょう。
- ・農作業の際は、適切な水分・塩分補給や休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！